

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立気仙沼小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒988-0073
宮城県気仙沼市笹が陣3番1号

E-mail : anba301@rose.ocn.ne.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 183 名 女子 134 名 合計 317 名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について

①実践の概要

1年…生活科など教科とのかかわりの中で実践

2年…生活科など教科とのかかわりの中で実践

3年…総合的な学習の時間で実践

「命をはぐくむ大川～鮭のふ化を調べよう～」

- 1 大川の位置を確かめる
- 2 鮭の生態・大川の特色についての講話を聞く
気仙沼市水産課の方から
大川漁業共同組合の方から
- 3 大川の魚について調べて発表する

4年…総合的な学習の時間で実践

「大川のめぐみ～源流を訪れよう～」

- 1 大川に生きる動植物を調べる
- 2 森（山）と川や海のつながりを探る
- 3 「大川桜並木保存会」の方と交流する
桜並木への追肥体験
歴史や今後の計画についての講話
- 4 調べて分かったことや感じたことを発表する

5年…総合的な学習の時間で実践

「野外へ出かけよう」

- 1 栗駒山とブナ林、川から海へのつながりを調べる
- 2 登山やブナ林散策などを通して実際に体験する
- 3 調べて体験したことを学習発表会で発表する

6年…総合的な学習の時間で実践

「オリジナル気仙沼弁当を作ろう」

- 1 未来に残したい気仙沼の食材を探す
- 2 決定した食材を使った料理を考える
- 3 オリジナル弁当を作る
- 4 食材を育む気仙沼の自然環境について考える

②実践の成果

1年…アサガオの栽培に取り組み、1粒の種が多くの命を増やしていくことに感動を得た。秋の昆虫を飼育することで、小さな生き物の命を身近に感じる事ができた。

2年…「町たんけん」では見学・インタビューを行い、身近な地域をよく知ることができた。「町たんけん」のまとめを地域の代表として保護者に向けた発表を行い感想を交流し、今後の自分はどうしていきたいかについて考えることができた。

3年…身近な河川である大川と、大川の鮭の遡上について調べ活動を行った。ゲストティーチャーを招き、鮭の遡上について教えてもらうことができた。

4年…理科「水のすがたとゆくえ」において海とのつながりを意識した授業を実践し、地域の海を教材として取り上げた。

5年…高齢者疑似体験と高齢者との交流会を行い地域の高齢者に対する理解と思いやりの気持ちを高めた。秋鮭料理教室を開催し地域の水産業への興味と理解を深めた。

6年…「オリジナル気仙沼弁当」に取り組み、食材から地域を見つめ直す活動に取り組むことができた。

③ねらい、及び学習内容（活動プログラム内容）の視点から

成果…ふるさと気仙沼を「地域・環境・産業・食育・防災・福祉」の様々な視点から見つめ直し、様々な活動に発展的に取り組むことができた。震災以降は復興という観点からも取り組むことができた。

課題…震災以降、復興に向けて変化し続ける地域に対応したプログラムを常に更新していかなければならないため、毎年の計画見直しが必要となる。

④指導計画、及び指導体制、指導方法の視点から

成果…活動プログラム似合わせ、各種団体や施設、ゲストティーチャーに協力を依頼したことにより形成されたネットワークを教育資材として毎年引き継ぎながら、新たなネットワークを発掘し、拡大していくことができた。

課題…震災以降、プログラムの見直しに合わせて、新たなネットワークづくりが必要となった。今後も、常に更新していくことが必要である。

⑤育てたい資質・能力に対する児童生徒の変容、評価の視点から

成果…地域の環境・産業・防災・福祉などに目を向けていくことにより地域に対する愛着が増し、自分と自然・環境との関わりを十分に感じ取ることができた。また、地域の「人」や「もの」「こと」を通して基本的な知識を得ることができ、地域に生きる人間としての自覚をもち、様々な問題に対しての自分なりの考えをもつ事が出来た。

課題…各教科との関連を図ってE S Dを進めてきたが、学年の発達段階に合わないものもあり今後の見直しが必要なものもあった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）